
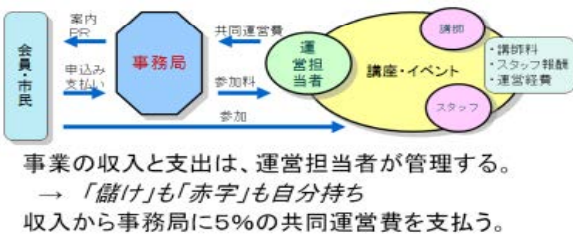


里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	(地域レベルでの取組基盤の整備)協働と持続性確保のための枠組み・体制の整備
手法名	里山保全活動を経済につなげる仕組みと発展する組織体制
主体	NPO法人 里山倶楽部
背景 (地域の課題)	<p>都市近郊の里山保全は、都市部住民が主な担い手となることが多い。いわゆる里山保全活動団体は、都市近郊に大変多く存在する。しかし、単に里山が好きな人々のレクリエーションや、無償奉仕による整備では活動は長続きしない。</p> <p>里山に関わるNPO法人は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市の視点を加えることで里山の資源の新たな価値化や経済の創出 ・里山整備の技術やノウハウを身につけ、行政など公的機関との連携により、里山の整備と多面的機能の回復や環境教育など、公益性の高い取組を仕事として行う <p>など、自然共生型社会を担う一つのセクターとして成長することが、これからの社会には必要である。</p>
手法/方策の詳細	<p>NPO法人里山倶楽部は、「好きなことして、そこそこ儲けて、いい里山をつくる」をコンセプトに、まだ里山という言葉が世に浸透していない1989年から活動を行っている。</p> <p>活動は多岐にわたる。里山整備や環境教育、地域の伝統的な里山文化の継承などの取組に加え、新たな経済を生み出す取組や、行政からの委託事業等を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産・販売、コミュニティビジネス(里山事業部、里山バザール、産直ショップ) ・受託事業(里山環境教育オフィス、バイオマスエネルギー事業部) ・協働事業(弘川千年の森、桜とりすの森、アドプトフォレスト) <p>(以下は2009年～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山倶楽部自然農場(無農薬栽培のセット野菜、里山源流米の生産販売) ・里山源流米の森・活性化機構 ・森林整備士養成技能講習 ・森づくり台帳・森づくりマニュアル作成 ・造林補助事業の活用 ・「(仮称)かなんの桜プロジェクト」(自治体と連携、雇用促進) <p>法人の収入は、生産物の売り上げのほか、受託費、補助事業費などであり、社会・経済の一翼を担う機関として機能している。</p> <p>このような活動を生み出した組織のありかたとして、以下の手法をとっている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自由に増殖する多細胞型組織(自分がやりたいことは自分で責任持って自主的にやる) ②各事業は独立採算制(各部会ごとに採算をまかせ、事務局には事務費を支払う形とし、法人全体の統制をとる) ③好きなことして、そこそこ儲ける <p>活動で生じる里山の生産物を「売る」:薪炭の販売、窯焼きパン、リースなど 運営管理のノウハウを「売る」:技能者講習、行政委託業務など</p>
手法・技術的視点	<p>参加者の個性やアイデアを活かし、責任ももたせた上でゆるやかに団体のまとまりを保つ組織形態が、組織の多様性と事業の拡充・深化のもととなっている。</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <h3 style="text-align: center; color: red;">里山倶楽部の特徴1</h3> <h4 style="text-align: center;">自由に増殖する多細胞型組織</h4> <p>欲しい企画は自ら作り出す。 ～立ち上げをスタッフや事務局が支援～</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <h3 style="text-align: center; color: red;">里山倶楽部の特徴2</h3> <h4 style="text-align: center;">各事業は独立採算制</h4> <p>自分がやりたいことは自分で責任持って自主的にやる!</p>  <p>事業の収入と支出は、運営担当者が管理する。 →「儲け」も「赤字」も自分持ち 収入から事務局に5%の共同運営費を支払う。</p> </div> </div>	
参考資料	<p>里なび研修会in京都 寺川裕子 NPO法人里山倶楽部理事</p>